

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-231238

(43) 公開日 平成10年(1998) 9月2日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

F I

A 6 1 K 7/48

A 6 1 K 7/48

7/00

7/00

C

W

審査請求 未請求 請求項の数4 F D (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平9-52262

(22) 出願日 平成9年(1997) 2月20日

(71) 出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(72) 発明者 古賀 信義

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株  
式会社資生堂第1リサーチセンター内

(54) 【発明の名称】 化粧品

(57) 【要約】

【課題】清涼感が長時間にわたり持続された化粧料を提供することを目的とする。

【解決手段】清涼剤から選ばれる1種もしくは2種以上とエタノール、更にイソプロピルアルコールを配合した化粧料。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 清涼剤の中から選ばれる1種もしくは2種以上及びエタノール及びイソプロピルアルコールを配合することを特徴とする化粧料。

【請求項2】 清涼剤の少なくとも1種がメントール誘導体である請求項1に記載の化粧料。

【請求項3】 清涼剤の少なくとも1種がメントール、カンファー、ミント、ユーカリ油、メンチルラクテート、メントキシプロパンジオール、メンチルヒドロキシブチレート、メントキシフラン、メンチルグルコシドの何れかである請求項1、または請求項2記載の化粧料。

【請求項4】 メントール誘導体がメンチルラクテート、メントキシプロパンジオール、メンチルヒドロキシブチレート、メントキシフラン、メンチルグルコシドである請求項2に記載の化粧料。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、清涼感の持続に優れた化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】一般に、化粧料の清涼感を得るために、メントール、カンファー、ミント、ユーカリ油等の清涼剤が配合される。しかしながら、これらの清涼剤は一次的には体温を冷し、清涼感が得られるものの、すぐに体温が戻り、逆にほてりを感じるので清涼感の持続効果には乏しいものであった。そこで清涼感が速やかに感じられる清涼剤とその効果が遅れて感じられるメントール誘導体を併用すること、更にはそれらをシクロデキストリン誘導体で包接することで清涼感の持続性に極めて優れた化粧料の特開平6-329528号で見出した。しかしながら以降これに並ぶ優れた化粧料は知られていない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】これらに鑑み本発明者らは化粧料の清涼感の優れた持続性を持つ化粧料を求め、鋭意研究を重ねた結果、清涼剤を配合した上にエタノール及びイソプロピルアルコールを配合することで、清涼感とその持続性に優れた化粧料が得られることを見出し、本発明をなすに至った。

【0004】

【課題を解決するための手段】すなわち、本発明は清涼剤及びエタノール更にイソプロピルアルコールを配合した事を特徴とする化粧料に関する。

【0005】以下、本発明の構成について詳述する。請求項1記載の発明で用いられる清涼剤としては速やかに清涼感の得られるメントール、カンファー、ミント、ユーカリ油等や、遅効性のメントール誘導体であるメンチルラクテート、メントキシプロパンジオール、メンチルヒドロキシブチレート、メントキシフラン、メンチルグルコシド等を挙げることができる。即効性の清涼剤の中

では特にメントールを用いることが好ましく、メントールを用いることが更に好ましい。また、遅効性の清涼剤の中ではメンチルラクテートを用いることが最も好ましい。

【0006】本発明の化粧料には清涼剤を1種もしくは2種以上配合することができる。清涼剤の配合量には特に制限はないが、0.001～10.0重量%が好ましく、0.01～5.0重量%が特に好ましい。

【0007】本発明で用いられるイソプロピルアルコールは分子量が約60.10(化学式:  $\text{CH}_3\text{CH}(\text{OH})\text{CH}_3$ )の可燃性の液体で水、アルコール、エーテル、クロロホルムと混ざり合い、塩溶液に不溶な物質である。イソプロピルアルコールの配合量は製品形態により異なり、特に制限はないが、適度な清涼感の持続効果を得るためには0.05重量%以上が好ましく、更には0.1～10重量%が特に好ましい。

【0008】本発明で用いられるエタノールの配合は製品形態により異なり、特に制限はないが適度な清涼感の持続効果を得るためには0.1重量%が好ましく、更には1.0重量%以上が好ましい。

【0009】本発明の化粧料には、必要に応じて、保湿剤、油分、薬剤、香料、色素等を安定性を損なわない範囲で添加することができる。

【0010】次に、実施例および比較例によって本発明を更に詳細に説明する。なお、本発明はこれによって限定されるものではない。実施例に先立ち、本発明の効果試験の評価項目および評価基準に関して詳述する。

【0011】(1) 安定性評価試験

各試料を、-10℃恒温槽に1ヶ月間保存し、色調、臭い、外観性状および使用感の変化について下記の基準によって評価した。

(評価基準)

◎: 色調・臭い・外観性状・使用感のいずれにも全く変化がない。

○: 色調・臭い・外観性状・使用感のいずれにもほとんど変化がない。

×: 色調・臭い・外観性状・使用感のいずれかに変化が見られた。

【0012】(2) 清涼感の感じ方に関する評価試験

化粧品評価の専門パネル15名を使って、選ばれた一つの試料を顔面の左に、それ以外の各試料を顔面の右にそれぞれコットンを使って塗布し、双方の清涼感の感じ方(即効性、遅効性、持続性)を下記の判断基準に基づいて評価した。

(評価基準)

◎: 専門パネル15名中12名以上が満足のいく清涼感がある答えた。

○: 専門パネル15名中8名～11名が満足のいく清涼感があると答えた。

△: 専門パネル15名中4名～7名が満足のいく清涼感

があると答えた。

×：専門パネル15名中0名～3名が満足のいく清涼感があると答えた。

【0011】実施例1～20、比較例1～20

表1～表4に示す処方により、実施例1～20および比較例1～20の化粧料を調製し、前記感応評価試験を行った。顔面の左に塗布する試料は各表ごとに比較例7、11、15、20とした。また、実施例1～20について\*

\*て安定性の評価試験を行った。なお、これら化粧料の調製は、アルコール相と水相を溶解混合後、攪拌冷却させる方法によって行った。試験結果は表1～表4に記載した。結果より明らかなように、清涼剤及びイソプロピルアルコール、更にエタノールを配合した試料は清涼感の持続性に優れ、安定性も極めて良好であった。

【0012】

【表1】

(重量%)

	実施例			比較例						
	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
イソ交換水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量
イソマイトリ	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
メントール	0.2	0.2	—	0.2	0.2	0.2	0.2	—	—	0.2
メントリゲート	0.1	—	0.1	0.1	0.1	—	—	0.1	0.1	0.1
エタノール	50.0	50.0	50.0	—	50.0	—	50.0	—	50.0	50.0
イソプロピルアルコール	1.0	1.0	1.0	1.0	—	1.0	—	1.0	—	—
シクロキストリン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.5
清涼感即時性	◎	◎	△	△	○	×	○	×	×	○
遅効性	◎	△	○	△	○	×	×	△	○	◎
持続性	○	○	○	△	×	×	×	△	×	◎
安定性	◎	◎	◎							

【0013】

【表2】

(重量%)

	実施例						比較例			
	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11
イソ交換水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量
イソマイトリ	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
カンファー	0.5	0.5	—	0.001	1.0	5.0	0.0005	0.5	0.5	0.5
トキシプロパノール	0.2	—	0.2	0.001	0.8	5.0	0.0003	0.2	0.2	0.2
エタノール	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0	—	55.0	55.0
イソプロピルアルコール	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	—	—
シクロキストリン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.0
清涼感即時性	◎	◎	△	○	◎	◎	△	△	○	○
遅効性	◎	△	○	○	◎	◎	×	△	△	◎
持続性	○	○	○	○	○	○	×	△	×	◎
安定性	◎	◎	◎	◎	◎	◎				

【0014】

【表3】

(重量%)

	実施例						比較例				
	10	11	12	13	14	15	12	13	14	15	
イオン交換水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	
グリセリン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	
グリチルリチン酸	0.3	0.3	—	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	
アロエ抽出液	0.1	—	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
2-ヒドロキシ-4-メトキシスルホン酸Na	57.0	57.0	57.0	10.0	2.0	0.5	0.01	57.0	—	57.0	
イオン交換水	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	—	3.0	—	
グリセリン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.0	
清涼感即時性	◎	◎	○	◎	◎	△	△	○	△	○	
遅効性	◎	△	○	◎	○	○	△	△	△	◎	
持続性	○	○	○	○	○	○	△	×	△	◎	
安定性	◎	◎	◎	◎	◎	◎					

【0015】

【表4】

(重量%)

	実施例					比較例				
	16	17	18	19	20	16	17	18	19	20
イオン交換水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量
グリセリン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
グリチルリチン酸	0.3	0.3	—	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
アロエ抽出液	0.1	—	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
2-ヒドロキシ-4-メトキシスルホン酸Na	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	—	—	50.0	50.0
イオン交換水	10.0	10.0	10.0	0.5	0.05	0.02	—	10.0	—	—
グリセリン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.0
清涼感即時性	◎	◎	△	◎	◎	○	△	△	○	○
遅効性	◎	△	○	◎	○	△	×	△	△	◎
持続性	○	○	○	○	○	×	×	△	×	◎
安定性	◎	◎	◎	◎	◎					

【0016】

## 実施例21 クール化粧水

配合量(重量%)

A. イオン交換水	100
グリセリン	2.0
グリチルリチン酸アンモニウム	0.05
アロエ抽出液	1.0
2-ヒドロキシ-4-メトキシスルホン酸Na	0.1

(5)

特開平10-231238

7	8
B. エタノール	15.0
イソプロピルアルコール	1.0
POE (60モル) 硬化ヒマシ油	0.5
メントール	0.2
メンチルラクテート	0.2
ビタミンEアセテート	0.01
ブチルパラベン	0.1
香料	0.01

(製造法) イオン交換水に溶解したAパートと、エタノールに溶解したBパートを混合して、クール化粧料を得る。本発明のクール化粧料は清涼感の持続効果が高く、\*

\*かつ安定であった。

10 【0017】

る。本発明のクール化粧料は清涼感の持続効果が高く、\*

## 実施例22 クールエッセンス

配合量(重量%)

A. イオン交換水	100
1, 3ブチレングリコール	10.0
カルボキシビニルポリマー	0.2
L-アルギニン	0.2
B. エタノール	30.0
イソプロピルアルコール	1.0
メントール	1.0
カンファー	1.0
ユーカリ油	1.0
メントキシプロパンジオール	1.0
マカデミアナッツオイル	1.0
POE コレスチリルジヒドロキシイソステアレート	1.0

(製造法) イオン交換水に溶解したAパートと、エタノールに溶解したBパートを混合して、クールエッセンスを得る。本発明のクールエッセンスは清涼感の持続効果※

※が高く、かつ安定であった。

【0018】

を得る。本発明のクールエッセンスは清涼感の持続効果※

## 実施例23 クールサンスクリーン

配合量

A. イオン交換水	100
ジプロピレングリコール	5.0
メントール	0.3
メンチルヒドロキシブチレート	0.3
エタノール	2.0
イソプロピルアルコール	1.0
苛性カリ	0.7
B. ステアリン酸	4.0
ステアリルアルコール	2.0
モノステアリン酸グリセリド	3.0
メチルシクロシロキサン	5.0
スクワラン	5.0
オクチルメトキシシナメート	7.5
2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン	2.0

(製造法) Aパートの水相とBパートの油相を均一混合して乳化させ、クールサンスクリーンを得た。本発明の

★安定であった。

【0019】

クールサンスクリーンは清涼感の持続効果が高く、かつ★

## 実施例24 クールコロソ

配合量

A. イオン交換水	5.0
-----------	-----

(6)

特開平10-231238

9

10

ヒドロキシプロピル・ミックス・CD

5.0

グリチルリチン酸モノアンモニウム

0.1

カルボキシビニルポリマー

0.1

L-アルギニン

0.1

B. エタノール

t o 100

イソプロピルアルコール

1.0

香料

3.0

メントール

0.1

メンチルラクテート

0.1

ユーカリ油

0.1

オクチルメトキシシナメート

3.0

(製造法) A部分を均一溶解した後、これに均一溶解 \* あった。

したB部分を添加混合しクールコロンを得た。本発明 【0020】

のクールコロンは清涼感の持続効果が高く、かつ安定で\*

実施例25 クールパウダーローション

配合量

A. イオン交換水

t o 100%

1, 3ブチレングリコール

1.0

メントール

0.2

メンチルヒドロキシブチレート

0.2

ミント

0.1

エタノール

20.0

イソプロピルアルコール

1.0

B. 亜鉛華

1.0

カオリン

1.0

微粒子酸化チタン

1.0

ベンガラ

0.1

(製造法) A部分を均一溶解し、清涼剤の包接体を作 ※パウダーローションは、清涼感の持続効果が高く、かつ

った後、均一混合した粉末B部分を添加し、均一混合 安定であった。

してクールパウダーローションを得た。本発明のクール※30 【0021】

実施例26 クール化粧水

配合量(重量%)

A. イオン交換水

t o 100

グリセリン

1.9

ヒドロキシプロピル-β-CD

1.1

グリチルリチン酸アンモニウム

0.05

アロエ抽出液

1.0

2-ヒドロキシ-4-メトキシスルホン酸Na

0.1

B. エタノール

14.5

イソプロピルアルコール

1.0

POE(60モル)硬化ヒマシ油

1.0

カンファー

5.0

メントキシプロパジオール

0.01

メンチルラクテート

0.01

ビタミンEアセテート

0.01

ブチルパラベン

0.1

香料

0.01

(製造法) イオン交換水に溶解したA部分と、エタノールに溶解したB部分を混合して、クール化粧料を得る。本発明のクール化粧料は清涼感の持続効果が高く、★50 ★かつ安定であった。

【0022】

11

12

## 実施例27 クールエッセンス

## 配合量(重量%)

A. イオン交換水	t o 100
1, 3ブチレングリコール	12.5
カルボキシビニルポリマー	0.3
Ｌ－アルギニン	0.15
B. エタノール	28.0
イソプロピルアルコール	1.0
メントール	0.01
ミント	0.01
ユーカリ油	0.01
メントキシプロパンジオール	5.0
マカデミアナッツオイル	1.0
POE コレステリルジヒドロキシイソステアレート	1.0

(製造法) イオン交換水に溶解したAパートと、エタノールに溶解したBパートを混合して、クールエッセンスを得る。本発明のクールエッセンスは清涼感の持続効果\*が\*高く、かつ安定であった。

【0023】

## 実施例28 クールサンスクリーン

## 配合量(重量%)

A. イオン交換水	t o 100
ジプロピレングリコール	5.0
ユーカリ油	10.0
メンチルグルコシド	10.0
エタノール	2.0
イソプロピルアルコール	1.0
苛性カリ	0.7
B. ステアリン酸	4.0
ステアリルアルコール	2.0
モノステアリン酸グリセリド	3.0
メチルシクロシロキサン	5.0
スクワラン	5.0
オクチルメトキシシンナメート	7.5
2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン	2.0

(製造法) Aパートの水相とBパートの油相を均一混合して乳化させ、クールサンスクリーンを得た。本発明のクールサンスクリーンは清涼感の持続効果が高く、かつ※

【0024】

## 実施例29 クールコロン

## 配合量(重量%)

A. イオン交換水	t o 100
グリチルリチン酸モノアンモニウム	0.15
カルボキシルビニルポリマー	0.15
Ｌ－アルギニン	0.1
B. エタノール	81.2
イソプロピルアルコール	1.0
香料	3.0
メントール	0.001
カンファー	0.001
メンチルラクテート	0.1
ユーカリ油	0.001
オクチルメトキシシンナメート	3.0

(製造法) Aパートを均一溶解した後、これに均一溶解 \*あった。  
したBパートを添加混合しクールコロンを得た。本発明 【0025】  
のクールコロンは清涼感の持続効果が高く、かつ安定で\*

### 実施例30 クールパウダーローション

#### 配合量(重量%)

	t o 100%
A. イオン交換水	
1, 3ブチレングリコール	1.0
カルボキシメチル- $\alpha$ -シクロデキストリン	1.0
ミント	0.2
ユーカリ油	0.1
メントールヒドロキシブチレート	0.2
エタノール	20.0
イソプロピルアルコール	1.0
B. 亜鉛華	1.0
カオリン	1.0
微粒子酸化チタン	1.0
ベンガラ	0.1

(製造法) Aパートを均一溶解し、清涼剤の包接体を作  
った後、均一混合した粉末Bパートを添加し、均一混合  
してクールパウダーローションを得た。本発明のクール  
パウダーローションは清涼感の持続効果が高く、かつ安  
定であった。 ※

※【0026】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の化粧料は  
清涼剤とエタノール及びイソプロピルアルコールを配合  
する事により、清涼感が長く持続する化粧料である。